

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

そもそも、人間は暗唱して語り継いでいくという能力を持っています。①それは長い人類の歴史の中で培ってきた偉大な能力です。しかし、今の時代は情報を頭の外に置いておくのに慣れきってしまったようです。

それはA、自分の頭を働かせなくなったということでもありません。

東北大学教授の川島隆太先生も「脳は楽をさせればさせるほど働かなくなる。だから楽をする道具というのはだめなんです」とおっしゃっています。

たとえば、コピーがない時代の学生は自分で書き写すしかなかったから、それだけ知識の身につけ方が深くなりましたし、知識を応用して活用する能力も培われていました。

B、コピー機が出現して、なんでも手軽にコピーできるようになると、授業のノートすら取らず、他人のノートをコピーして済ませるようになってしまいました。

さらにパソコン出現後はコピーもしくなくなって、②あるうことがC、コピー&ペースト)ですべてを済ませようとするようになってしまいました。

コピーというのは、ただ単にインターネットの中の情報をつなぎ合わせるだけですから、まったく頭を使うことはありません。その結果、本物の知識が蓄積されることもなければ、自分で作成した文章なのに、自分の頭にも入っていないという状態になってしまいます。

だからこそ、私は頭をよくする読書、とくに音読や暗唱を実践するべきだと声を大にして言っているのです。

ここまで、音読の大切さを繰り返し述べてきました。ここからは、音読の具体的なやり方を説明することにします。

音読をやる際にまず大切なのは、③音読したい箇所を見つけることです。どんな文章でもいいのですが、古典と言われている作品は、普遍的な④価値観を持っているのでおすすめです。

たとえば私は、ときどきシェイクスピアのある場面や、『平家物語』のある場面を暗唱しています。名文をいつでも暗唱できるようになると、気分がよくなって、さらに情熱が湧いてきます。

完全に覚えるまでは、いつでも確認できるように、暗唱したい部分を見開きコピーして持ち歩くといいでしょう。そして、散歩しながら音読する。C、電車の中で声に出さずに口だけ動かして読むのです。

歩きながら暗唱していると、その先も暗唱したくなります。家の前まで戻ってきても、そのまま家に入るのがもったいない、家の周辺をもう一回りしてきたい、といった気持ちが湧きあがってきさえします。

これはそんなに不思議なことではありません。みなさんも、演歌とかポップスとか、一節を歌ったら次の歌詞が自然と出てくるはずですよ。それと同じです。

私がこのようなことを言うと、「文章の場合、歌と違ってメロディーやリズムがないのでなかなか覚えられないのではないか」と言う人がいます。

しかし、そういう人は、普通の文章に関しては覚えるというほど繰り返し音読したことがないので、覚えるということがどういうことかをわかっていないだけです。

試しにリズムをつけて音読してみると、意外にスラスラと頭に入ってくることを実感できるはずですよ。それを、二〇回、三〇回、五〇回、一〇〇回と回を重ねれば、見開きの左右2ページ分ぐらいの文章は自然に覚えてしまうものなのです。

そしていったん覚えてしまえば、こちらのもの！ 自分のその後の人生を豊かにしてくれる、一生の財産になります。

さらにいいことに、暗唱できるようになった見開きは、その本全体を見通す窓のような⑤役割を果たします。

ここを覚えようと思ったということは、それがその本のクライマックスの一つだということであり、本の世界が凝縮されている箇所でもあります。

それを引用できるということは、その本の世界観全体を持っているようなものです。それは、自分の心を拡大させてくれるのです。

そもそも、⑥人間が一人で築ける世界観は、それほど広いものではありません。むしろちっぽけなものと言ってもいいでしょう。肉親や友だちが世界観を広げる手助けしてくれるかもしれません。しかし、それでもまだまだ薄っぺらです。

もともと自分の世界を広げる努力をすべきであり、そのために最も役立つのが読書です。

本を読むことで、自分の中に偉大な他者を持てるようになると、視野が大きく広がります。そのためにこそ、すばらしい先人たちが書いた本を読む必要があるのです。

人類の精神文化を培ってきた人たちの言葉を自分のものとすることで、人間の心というのが、実は偉大な⑦他者によって培われた豊かな森であるということに気づけるようになるのです。

(齋藤孝『究極 読書の全技術』による)

(注1) コピー(コピー&ペースト)——コンピューターで文章や画像などのデータを写し取って、他の位置にはりつけること。

(注2) 普遍的——多くのものごとに通じてあてはまること。

(注3) 見開き——書籍などを開いて、左右二ページで一枚に見えること。

(注4) クライマックス——文学作品や劇などで、感情や状態が最も高まること。最高潮。やま場。

問1 A Cにあてはまることばを、次のア～オから一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア ところが イ ところで ウ では エ つまり オ あるいは

問2 線部①「それは長い人類の歴史の中で培ってきた偉大な能力です」の主語と述語の関係として最もふさわしいものを、次のア～ウから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 何(だれ)が——何だ。
 イ 何(だれ)が——どうする。
 ウ 何(だれ)が——どんなだ。

問3 線部②「あろうことか」の意味として最もふさわしいものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 今までなかったことだが
 イ とんでもないことに
 ウ おどろいたことに
 エ すばらしいことに

問4 線部③「音読したい箇所」とありますが、これについて次のようにまとめるとき、「」に入れることばを本文中から十二字で探し、はじめの五字をぬき出して答えなさい。

・音読したい、暗唱したいと思つたということは、「」と考えられ、覚えておくと本全体を見渡す窓のようなものになる。

問5 線部④「価値観」と同じ組み立ての三字熟語として最もふさわしいものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 心技体 イ 高気圧 ウ 会議室 エ 無防備

問6 線部⑤「役割」は「役」が音読み、「割」が訓読みの熟語です。同じ読み方をする熟語を、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 歩道 イ 場所 ウ 境目 エ 台所

問7 線部⑥「人間が一人で築ける世界観は、それほど広いものではありません」とありますが、筆者は世界観を広げるためにどのようにすることが大切だと考えていますか。「先人」「視野」ということばを使って、三十字以内で答えなさい。

問8 線部⑦「他者」の対義語(反対の意味の言葉)として最もふさわしいものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自己 イ 他人 ウ 全員 エ 個人

問9 本文の内容と合っているものを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア コピー機がない時代の学生は、他人のノートを書き写したうえに音読して知識を身につけていた。
 イ 音読の読書だけでは頭を使つたことにならないので、内容を覚えるまで暗唱することが大切だ。
 ウ 何度も繰り返し返して暗唱できるようにした文章は、その後の人生を豊かなものにしてくれる。
 エ 自分一人では世界観を広げることは難しいので、肉親や友人に手助けをしてもらう必要がある。

二 次の各問いに答えなさい。

問1 次の線部の漢字の読みをひらがなで書き、カタカナは漢字に直しなさい。

- ① 洗濯物を干す。 ② 母の誕生日を祝う。
 ③ 王様に忠誠をちかう。 ④ アブない遊びはしないこと。
 ⑤ コウヨウの季節になってきた。 ⑥ ボランティアでチイキに貢献する。

問2 次の①～⑥の□にあてはまる漢字を、後の漢字群から一つずつ選んで答えなさい。

- ① 雀□まで踊り忘れず ② かわいい子には□をさせよ
 ③ □隠して尻隠さず ④ 縁の下の□持ち
 ⑤ 一寸の□にも五分の魂 ⑥ □の顔も三度

漢字群 虫・人・百・頭・足・力・仏・旅